

ブライアン・J・L・ベリー「都市地理学における新分野」

Brian J. L. Berry, "Research Frontiers in Urban Geography",
P. M. Hauser and L. F. Schnore(ed.), *The Study of Urbanization*,
John Wiley & Sons, Inc., New York, 1965, pp. 403-430.

『都市化の研究』は4部分に分かれ、序論として都市化問題概観(P. M. Hauser)が与えられ、第1部は歴史・地理・政治・社会・経済の各分野からの都市化問題の展望の5論文、第2部はアメリカ大陸やアジアの都市化に関する比較研究の4論文、第3部は特殊研究の4論文を含み、ベリーの論稿は第3部に含まれる。各論文は1965年夏、シカゴ大学でひらかれたシンポジウムで報告され討論されたもので、執筆者は社会学、政治学、経済学、地理学、文化人類学の各分野を含んでいる。多くの論文は業績展望ないし文献解題の性格を含んでおり、各論文末の詳細な文献註は有用である。

ベリーのこの論稿も同様に、最近、地理学の都市研究でもちいられている計量分析技術を総ざらいして展望する。5つの研究主題をとりあげているが、それは(1)都市の階層的配置、(2)都市規模の規則性およびそれと都市化との関連、(3)都市配置と交通網との関連、(4)都市内部の土地利用形態、(5)都市成長予測のためのシミュレーション・モデルである。

(1)の都市の階層的配置の問題では、代表的な理論であるクリスタラー(Christaller)の中心地理論(Central place theory)に対して、その追認や修正や一般化を試みた研究が列挙され、その分析技術として nearest-neighbor method, 線型マトリックス, special price equilibrium, set theory and topology, aggregative model などが示される。さらに都市の特性分布の例として、規準以下住宅についての多元回帰分析が紹介され(Hartman & Hook)、家族所得の中位数、人口過密、非白人家族割合で有意が示される。また住宅地域区分の研究(Fuchs)では、所得2,000ドル以下の家族割合、持家家族割合で有意となる。

(2)の都市規模の規則性と都市化の問題では、ツィフ(Zipf)のrank-size rule に対する批判や一般化が紹介され、一般化の条件として、都市人口の大きさに比例する人口増加および最下位都市の系列への編入を仮定した場合とそうでない場合とで分布形が log-lognormal, lognormal (=Zipf), lognormal (Yule) に分かれる問題(Thomas)が示される。また都市化や経済発展との関連では、各国都市人口の累積度数分布形を lognormal (rank-size), primate, その中間の3者に分類して、これと各国の経済水準との関連および移行の問題が示される(Berry)。

(3)の都市配置と交通網との関連は短かい展望であるが、交通機関の改善が都市の各階層に与える影響と都市内部での機能分化とが主題である。

(4)の都市内部の土地利用形態の問題は、basic-nonbasic 理論を基礎として、都市地域内の空間構造、とくにCBDの性格が一つの課題とされるが、さらに居住地域の選択と形成とが注目されて、これは Hoyt (Hoyt) のセクター理論が基礎となる。同心円とならない「ひとで」状のパターンに対するハイウェイの重要性(Marble)、地価決定要因としてのセクターの重要性(Knos)などの問題がとりあげられる。さらに都市周辺人口増加の説明要因として、シカゴの場合、人口密度と出生・死亡差とだけが有意であるが、セクターとしては北部と南部とがより高い相関を示す(Thomas)。また都市人口密度の問題では、都心からの密度低下の傾斜がとりあげられ、1次米は都心人口の増加とともに傾斜が減少し、低開発地域では逆であり、前者は金持の郊外分散が理由とされる(Berry, Simmons & Tennant)。

(5)のシミュレーション・モデルでは、モンテ・カルロ法にしたがって「人口増→住宅増→住宅地域形成→商業区・学校・公園などの配置→土地利用形態の確定のプロセスを考え、第1期・第2期と繰り返され、このようなシミュレーションの多くのサンプル群があれば、平均成長パターンとその変異とを計量しうる」とする(Garrison)。

シミュレーション法は都市発展を予測する分析方法として、都市地理学研究の一つの目標とされるが、このように各種計量分析的方法をもちいる都市地理学新分野の研究者も、最終目標は他の地理学研究者と同様であるとベリーは展望のはじめに述べている。地理学をも含めて一般に、都市研究のような歴史的にも地域的にも複雑な構造と発展とを含む分野で、今後、こうした計量分析の有効性と限界とに注目することは重要であろう。

(濱 英彦)